



神戸学園都市



ワイズメンズクラブ

THE Y'S MENS CLUB OF KOBE GAKUENTOSHI
THE SERVICE CLUB TO THE YMCA

2020年7月（通巻313号）

< 主題 >

- ・神戸学園都市クラブ会長：柴田昌一：「みんなでチャレンジしよう」
- ・国際会長：Jennifer Jones(オーストラリア)：「Building today for a better tomorrow」
より良い明日のために今日を築く、さあ働こう
- ・アジア太平洋地域会長：田中博之(日本)：「アクション！」
- ・西日本区理事：古田祐和(京都トゥービー)：「Let's do it now, 2022に向けて誇りを持って
All is well」
- ・六甲部長：安行英文(さんだ)：「行動に信念を、信念は行動に」
Believe in what you do. Do what you believe.

7月第1例会

- ・日時：2020年7月16日(木)19:00~21:00
- ・場所：西神戸YMCA
- ・内容：開会点鐘
YMCA 学院学生支援報告
カレッジスタッフ 坂本孝司
閉会点鐘

< 今月の聖句 >

「わたしの口から出るわたしの言葉も
むなしくは、わたしのもとに戻らな
い。それはわたしの望むことを成し遂
げわたしが与えた使命を必ず果たす」
(イザヤ書 55 章 11 節)

7月誕生者おめでとう

中村 剛 (7/27)

6月の出席状況

第一例会 9名
事務例会 9名

6月累計ファンド成績

- ・CS(年賀切手) 6,300円
- ・TOF(断食) 5,880円
- ・FF(家庭の断食) 3,360円
- ・BF(古切手) 6,300円
- ・東日本募金 19,600円
- ・Yサ・ASF 28,000円

[役員] 会長：柴田昌一、直前会長：杉本隆人、書記：杉本隆人、会計：中村 剛、連絡主事：横山徹太郎
[委員] 地域奉仕・環境：内田邦彦、Yサ・ユース：森本哲男、交流：隠樹圭子、ファンド：丹家元陽、仁科拓巳
EMC：藤井久子、広報・ブリテン：田辺征一、メネット：合田純二、メール委員：田辺征一、
[六甲部役員] JWF 委員：杉本隆人 [IBC]台湾高雄ポートクラブ(2004年1月締結)
[DBC]東京武蔵野多摩クラブ(2011年6月締結) [DBC]岡山クラブ(2018年6月締結)

神戸学園都市クラブ 〒651-2102 神戸市西区学園東町2-1-3 TEL 078-793-7402 FAX 078-793-7470
事務例会：第1木曜日、第1例会：第3木曜日、クラブホームページ
<http://www.kobeymca.org/ys/gakuen/bulletin.html>

＜2020-2021 期 西日本区理事方針＞

古田祐和（京都トゥービー）

ワイズメンズクラブ創立 100 周年、そして西日本区発足 25 周年である西暦 2022 年がまもなくやってきます。この節目の年に向けて西日本区ではワイズ将来構想特別委員会が様々なことを企画しメンバー増強、そしてより強い組織作りのために活動を行っています。もちろんワイズ将来構想特別委員会は一生懸命に様々なことを考え活動しているのですが、はたしてワイズ将来構想特別委員会に任せっきりでいいのでしょうか。ワイズメンズクラブの発展を生み出すのはメンバーひとり一人でありメンバーが所属するクラブではないのでしょうか。

より人が集まるクラブとはメンバー全員が魅力を感じるクラブだと思います。ではどうしたら魅力を感じるクラブができるでしょうか？それには色々な方策があると思いますが、ただ単に居心地の良いクラブからの脱却ではないのでしょうか。例会に行くのが楽しみになる、それは例会の内容はもちろんのこと、人と人の交わりにより生まれる人の成長を自分の中で感じることができればクラブの魅力をも十分に感じることができその喜びを自分の周囲に伝えたいと思います。このようにクラブを発展させるためには個々の力が当然大きいのですが同時に、広報活動が大きな要素になることは間違いありません。皆様も自身の仕事の中で広報の重要性というのは十分に承知されていると思います。ワイズメンズクラブも同じです。より効果の高い方法で広報をタイムリーに行っていくことが我々の活動を世の中の人たちに認知してもらうには絶対に必要です。現在西日本区には広報・情報委員会がありますが、各部に目を向けると広報的な委員会を持つ部は少ないのが現状です。クラブ内においてはブリテン委員会が兼務で広報を行っているケースが多いのかと思います。是非各部においても広報を担当する委員会を設置していただき区・部・クラブが一体となりワイズメンズクラブが広く世の中に認知され好感度を上げるために活動していただきたいと思います。

広報を考えるときに一つの提案があります。それはワイズデーの活用です。日本で初めて大阪クラブが国際協会に加盟した 11 月 10 日をワイズデーと定めていますがそのワイズデーを利用して各部や、もし部単位が難しければいく

つかのクラブが協力して、もちろん 1 クラブ単体でも構いません、なにか社会にワイズメンズクラブを大きくアピールする事業を行ってもらえればと思います。もちろん 11 月 10 日は平日ですからその前後の土日を利用して行う事になります。そしてこの事業をメディアを通じて大いに広報してほしいのです。西日本の各地で 11 月 10 日前後に様々な事業が行われワイズメンズクラブをアピールし認知度を高める事ができれば部やクラブにとっても非常にやりがいのある事業になると思います。是非強い気持ちで実現したいものです。その他色々大切な事業がありますが、みんなで一致団結 2022 に向けて強く大きな西日本区をつくっていきましょう。そして最後にみんなで感動しませんか。

＜6 月例会報告＞

新型コロナウイルスの影響で、2 月から 4 か月間も第一例会を実施することが出来ませんでした。6 月は久しぶりで第一例会でした。

兵庫県は新型コロナの環境がよくなり移動自粛も緩和されたので、今年度最後の第一例会を椅子の間隔を広げ全員がマスクを着用し、3 密を避けて実施しました。

今月のテーマは昨年東日本区大会で上映された歴史研究家森重昭氏の広島原爆の被爆犠牲者 14 万人の中に 12 人の米兵捕虜がいたことを知り、真実を知りたいと当時の事情を知る人を尋ねて回り、アメリカの遺族を探して文通を重ねて、人生の半分をこの事業に捧げたドキュメンタリー映画「灯籠流し」の鑑賞でした。

森氏は自身も被爆者で当時子供でしたが、犬が遺体を食べにくる中を泣きながら逃げたことを鮮明に覚えているとのことでした。

アメリカ兵が被爆死したことは日本でもアメリカでも長く知られていなかったのですが、長年の地道な調査によって明らかになり、原爆死没者慰霊碑の名簿に名前を記帳し、お墓も建てられたとのことでした。

2016 年 5 月にオバマ米国大統領が来日して広島原爆戦没者慰霊碑を訪れて献花して犠牲者を悼み、森氏に歩み寄り感謝の気持ちで抱擁した情景は印象的でした。

毎年 8 月に広島と長崎で原爆戦没者の慰霊の式典が挙行されますが、報道を見るたびに過

去の大戦に思いを致し、二度とかかる悲劇が起こらないことを祈っております。（野呂 隆）

＜7月事務例会報告＞

日時：2020年7月2日（木）19:00～20:15

場所：西神戸YMCA 学園都市 412号室

出席：中村、野呂、柴田、横山、仁科、内田、森本、田辺、丹家、藤井、杉本

・協議に先立ち、西日本区JWF委員会委員として杉本隆人が選出され、その委嘱状を柴田会長が代読して会員に宣言をした。

協議事項

(1) 第27期会長の柴田ワイズから今期の主題「みんなでチャレンジしよう」について方針・活動計画の指針が表明された。

(2) 第26期会計報告及び第27期会計計画が中村ワイズよりなされた。

・6月29日にYMCAにて会長立会いのもと、仁科ワイズにより監査され、問題なく処理されていることが報告された。

・27期会計計画を全員で協議し、基本案を承認した。しかし、コロナ渦の状況により臨機応変に対応することも確認された。

(3) 第27期活動計画（年間スケジュール）について柴田会長より説明がなされた。

今期はコロナ感染状況によりスケジュールが変動的になるので、外部講師および公開例会は、基本的に避けて例会を実施していく。

・7月例会：7月16日（木）19:00～20:30

キックオフ「支援いただいたお礼と現状報告」
坂本孝司氏

・8月例会 「納涼懇親会」 日程調整中

(4) YMCA報告

横山連絡主事よりコロナ関連の緊急支援金のお礼および総主事名の感謝状が来ていることが報告された。

すでに全学生には、支援金を配布している。また、日本語学科での留学生支援についても申請を受付。現在、審査段階にあり迅速な対応ができているとの報告があった。

「ジブラルタル海峡クルーズと色彩の

王国モロッコ 11日間」 （第1回）

2019年8月20日（火）

午後診もつつがなく終了し、火の始末、戸締りを確認し、セコムしてPM7:40学園都市を出発。阪神高速も順調に走り、PM8:50関空着。チェッ

クインも済ませ、腹ペコでラウンジへ。乾いた喉に冷えたビールが滑り込む。これから、日常の生活から解放されての夏休みが始まる。最高の瞬間！今回もエミレーツ航空のエアバス A-380-800(EK0317 便)総2階の巨大機、1Fが全てエコノミー約400席、2Fがファーストとビジネスで約150席に乗り込むと、ウェルカムシャンパンを頂く。PM11:45巨体を震わせながら離陸。中継地Dubaiまで約10時間。水平飛行に移った8月21日（水）AM1:00頃に夕食。ものすごく眠い中、前菜の仔牛のツナソースサラダ、メインのチキンカツカレーをオーストラリア産白ワインで頂く。デザートは季節のフルーツもそこそこに、お休みなさい。着陸前の朝食は、和食を頂く。AM4:50ドバイ着。時差5時間。外気温33℃。ここドバイ空港は世界で一番広い空港と言われ、A、B、Cの巨大ターミナルを地下鉄で結んでいて、空港内のアナウンスは一切なく、非常に静か。しかも出発予定の20分前にはゲートが閉まってしまうので、しっかりとアナウンスボードを確認していないと大変な事になる。AM7:25エアバスA-380-800(EK0751 便)は離陸。朝食はシャンパンと共にパン、ヨーグルト、フルーツを軽めに。昼食は、前菜に分厚いスモークサーモンをフランス白ワインで。メインは口の中でとろけるようなカレー風味のショートパスタにプリプリのエビと白身魚がミックスして美味。ワインが進む。デザートはオレンジソースのかかったスポンジケーキで大満足。眼下には赤茶けた大地が広がり、約8時間のフライトでPM0:05予定より早目にモロッコCASABLANCA Mohammed V空港着。時差3時間。ここモロッコは2018年より年中サマータイムをとっていて日本との時差8時間。空港でモロッコ通貨に両替。ほとんどの費用は旅行代金に入っているの、少しでいいでしょうとのアドバイスの元、6万円にした。モロッコ1ディルハム(DH)約12円。ちなみに枕チップ10DH、トイレチップ2DHが相場。ここでスルーガイド（全行程のマネージメント）のイスマイル君、そして最後まで1人で大型バスを運転して頂くカリムさんと合流。

さて、モロッコ。正式にはモロッコ王国。1956年フランスから独立した立憲君主制。議会は1院制。私にとっては初めてのアフリカ大陸。アフリカ大陸北西の角っこにあり、面積は日本の約1.2倍。西サハラを入れると1.9倍。スペイ

ンから見ればジブラルタル海峡をはさんで、すぐそこ。肉眼で充分見える。人口約 3200 万人。ベルベル系が約 60%、アラブ系が約 39%。宗教はスンニ派のイスラム教。という事は、豚肉は絶対ダメ。そしてアルコールも原則的には禁止されているので、食事の楽しみを半減させる場面にも出くわす事にもなる。海外旅行では、これは大問題。ここカサブランカは、モロッコ最大の経済都市で、スペイン語で「白い家」を意味する。ここのタクシーの色は赤色。バスの車窓から壁に囲まれたメディナ（旧市街、10 世紀頃の建物）や楽しそうなスーク（市場）を見ながら、まずはムハンマド 5 世広場へ。大きな噴水に鳩が群れている広場の周りには市庁舎、裁判所、中央郵便局、劇場等の街の中核機関が集まっている。次はハッサン 2 世モスクへ。1993 年に完成したモロッコ最大のモスクで大西洋の波がすぐ近くまで来ていてミナレット（塔）の高さは 200m で世界最高。内部では 25,000 人、外の広場では 8 万人が礼拝できるとの事。国内から集められた大理石、御影石、タイル等のモザイク模様が素晴らしい。地下のトイレに案内された。中央には銭湯にあるような蛇口がズラッと並び、そこに小さな水桶が置いてある。

一般的な小便器はなく、壁の周囲に小部屋がズラッと並んでいて、中に入るとしゃがむ為の足場があり（昔の和式便所をイメージして下さい）紙はなし。イスラムでは右手は握手したり、食事に使う為で神聖なものとされている。そして、左手は不浄のものとされていて、先程の水桶に水を汲み、用を足した後は、その左手の出番となる。なお、紙の使用は詰まる原因となるので御法度。これから所々で出くわす事になる。バスは左手に大西洋を見ながら走る事約 110 km。今夜のホテルがあるモロッコの首都 RABAT 着。ラバトは行政の中心で国王の為の広大な宮殿の中には王宮庁、防衛庁、教皇庁等の官庁があり約 2000 人が働いていて、写真は不可。ホテル着後に頂いたミントティーは、熱いが少し甘目でさっぱりとしていてこれからの楽しみになる。モロッコ最初の夕食はブッフェ方式。野菜と白身魚のタジン、牛ミンチのタジンを始め、イワシのムニエル、ナスのラタトゥーユ、鳥肉のソテー、パスタ、色々のフレッシュサラダをなぜか、ぬるめのカサブランカビールで楽しみ、長い長い 1 日の終了でバタンキュー。

（丹家元陽）

＜ 今月の聖句 ＞

「わたしの口から出るわたしの言葉も、むなしくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ、わたしが与えた使命を必ず果たす。」
（イザヤ書 55 章 11 節）

「心にしみる名僧・名言逸話集」に次のようなことが書かれてありました。
「人間が生まれたのには何か使命があるのだろう。使命とは、この自分の命を使うことであり、生命とはこの自己の命を生かすことだと気がついた。」
この言葉の前にいま立ち止まっています。神様からいただいたこの命を使うとは、どのようなことでしょうか。この命を生かすにはどうしたらよいでしょうか。使命と生命。もし与えられた命を自分のためだけに使うとしたら・・・。
そうありたくはないと思います。神様と隣人のために与えられた命を使うとき、この命は生かされます。新しくはじまる時、私たちの「ミッション」を確認して出発です。神様はその使命を必ず果たして下さいます。

西日本区チャプレン 立野 泰博（熊本ジェーンズ）

西日本区理事通信2016年7月号から転載